

2020 年度 一般社団法人日本臨床化学会
第 3 回理事会（拡大理事会）web 開催議事録

日 時： 2020 年 10 月 30 日（金）16：50-18：30

議 長： 前川真人（代表理事）

出席者： 前川真人（代表理事）、三井田孝、三浦雅一、山田俊幸（以上 常務理事）
池田勝義、植田 成、川崎健治、川野克己、康 東天、小谷和彦、齋藤邦明、
坂本秀生、柴田綾子、菅野光俊、仁井見英樹、濱田悦子、眞野成康（以上 理事）
戸塚 実、矢富 裕（以上 監事）
飯沼由嗣、加藤公則、恵 淑萍、末廣 寛、橋口照人、吉田 博（以上 支部長）

欠席者： 大久保滋夫、村上正巳（以上 理事）

大澤春彦、三田村邦子（支部長）、河野麻理（企業会員世話人）

理事出席者数 17 名（全理事数 19 名）、全出席者数 25 名

議 題

1. 開会の辞（前川 代表理事）

- ・理事総数 19 名中 17 名の出席があり理事会は成立した。
- ・代表理事より開会の挨拶があった。

2. 第 60 回年次学術集會会長挨拶（三井田 年次学術集會会長）

- ・三井田孝年次学術集會会長より挨拶があった。

3. 議事録確認者の指名（前川 代表理事）

- ・三井田孝理事、柴田綾子理事が指名された。

4. 報告事項

1) 庶務報告（山田 庶務担当理事）

①学会会員現状報告

- ・2020 年 10 月 20 日時点で、正会員 1,306 名、正会員（30 歳未満）132 名、評議員 163 名となっており、会員数は順調に増えていると報告された。

②事業報告・事業計画

- ・2020 年 6 月から 10 月までに開催された会議、学会誌発行について報告された。
- ・本理事会以降に開催予定の会議、学会誌発行、年次学術集會について報告された。

2) 2020 年度会計中間報告（三浦 担当理事）

- ・2020 年 4 月～9 月までの中間報告があり、収支共に順調であることが報告された。

3) 第 61 回年次学術集會報告（康 次期年次学術集會会長）

会 期：2021 年 11 月 5 日（金）～7 日（土）

会 場：福岡国際会議場

会 長：康 東天（九州大学大学院医学研究院）

テーマ：臨床化学の未来図

5. 審議事項

1) 理事・監事選出について（川崎 選挙管理委員長）

- ・今回から理事、監事候補者を立候補制としたうえで選挙を実施し、理事7名、監事1名を選出した旨報告がなされ、承認された。

理事：(1) 基礎系：恵 淑萍、坂本秀生、(2) 医療系（医師）：山田俊幸、吉田 博、
(3) 医療系（非医師）：菅野光俊、堀田多恵子、(4) 産業系：酒瀬川信一
監事：前川真人

- ・次回選挙に向けての確認事項について、前川代表理事より常務理事会で検討された結果が下記のとおり報告された。

- ・選挙区分が不明確な方、違う区分に登録した方について、区分の説明を明確にする。
(常務理事会) 1年を目途に区分をしっかりと登録する方向に誘導する。
- ・立候補時と役員就任時で区分が変更になる場合の対応を検討する。
(常務理事会) 区分の変更があった際には、代表理事推薦で補填するなどバランスが崩れないように検討していく。
- ・立候補期間を延長する場合、「期間を延長することもある」と通知した方が良い。
(常務理事会) あらかじめ「期間を延長することもある」とアナウンスしておく。

2) 名誉会員・有功会員（候補者）について（前川 代表理事）

- ・細則9条に基づき、名誉会員1名、有功会員5名を候補者として推薦する旨報告がなされ、承認された。

名誉会員：戸塚 実、有功会員：岡山昭彦、奥村伸生、日高宏哉、中谷 中、松永 彰

3) 評議員推薦について（前川 代表理事）

- ・細則22条に基づき、下記1名を評議員に推薦する旨報告がなされ、承認された。

荒木秀夫（日本大学病院）

- ・2021年2月には各支部宛に評議員の推薦依頼をする予定。

4) 第64回年次学術集会長選出について（眞野 集会・広報委員長）

- ・集会・広報委員会にて検討した結果、山田俊幸理事が候補者として選出された。
- ・細則36条に基づき、山田理事が第64回年次学術集会長に推薦され、承認された。

5) その他（前川 代表理事）

- ・議決権行使書、利益相反調査などをWeb上で行えるように、学会ホームページに会員専用ページを設置することが常務理事会から提案され、承認された。
- ・今年度はYIAの選出がコロナの影響で困難な状態となった。どのような方法でYIAを選出するかは各支部に決定を一任するが、適任者を選出する。

6. 報告事項

1) 常置委員会報告

①編集委員会報告（仁井見 編集委員会委員長）

- ・「臨床化学」の刊行状況、ACB、勧告法総集編2020年版刊行状況について報告された。
- ・ニューズレターについては、運営委員会を設置し、定期的に発行していく。
- ・2021年4月より委員長、副委員長、委員の交代を予定している。
- ・学会誌の紙媒体としての制作を今後どうするか継続審議としている。この件について、前川代表理事より常務理事会での検討結果が報告された。2022年1月に発行する第51巻第1号

より「紙媒体としての冊子は廃止」する旨決定し、広告費の減少については、ニュースレターの運営委員会主導で、ニュースレター活用やバナー広告によって補充できる体制を整えるとのこと。

②国際交流委員会報告（坂本 国際交流担当理事・委員長）

- ・IFCC WORLDFLAB SEOUL は 2022 年 6 月に開催が延期された。IFCC Webinar は頻繁に開催予定。
- ・IFCC eNews は、学会賞受賞者に執筆を依頼し掲載済。今年度の受賞者にも同様に依頼する。
- ・APFCB Congress 2019 は 11 月にインド ジャイプールにて開催し、JSCC シンポジウム「日本発の新たな Biomarker」を実施した。
- ・次回 APFCB Congress 2022 は 2022 年 10 月シドニーにて開催予定（2024 年へ延期の方向で検討中）。
- ・APFCB News へも寄稿しており、第 60 回年次学術集会報告も掲載予定。

③教育委員会報告（池田 教育担当理事・委員長）

2020 年度認定臨床化学者：

- ・新規 6 名、更新 28 名の申請があり、全員が審査に合格し承認された。新規の申請者数は減少しており、更新該当者も定年などのため更新しない方がいるため、認定臨床化学者の全体数は減少傾向にある。委員会では「評議員就任の際に『認定臨床化学者取得』を必須事項」にすれば認定臨床化学者の数は増加するのではないかとの意見があり、理事会に提案したが、産業系の評議員や獣医学部所属の方は取得が難しいとの意見があり、委員会にて再度検討する。
- ・募集要項について、申請書の一部を修正する。詳細については再度メールにて理事会審議とする。

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者 指定講習会：

- ・第 60 回年次学術集会最終日に新規受験者のための指定講習会を開催する（申込数約 260 名）。

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、管理者制度：

- ・新型コロナの影響により、日本臨床衛生検査技師会が関与するすべての認定制度が停止されたため、今年度はすべて休止とした。

認定臨床化学検査技師の現状：

- ・教育委員会にて指定講習会などプログラムの原案を作成したが、新型コロナの影響で日本臨床衛生検査技師会との打ち合わせができない状況にあり、保留となっている。

④学術連絡委員会報告（康 学術担当理事・委員長）

- ・各専門委員会で開催しているプロジェクトの進行状況が報告された。POCT 専門委員会、クオリティマネジメント専門委員会は新規プロジェクト申請を準備中、ピットフォール研究専門委員会は委員追加を検討しており、メール理事会にて別途審議を依頼する。

⑤集会・広報委員会報告（眞野 集会・広報委員会委員長）

- ・学会ホームページの各支部の更新状況、専門員会の更新状況が報告された。バナー広告を増やすため、先生方に協力をお願いしたい。

⑥学会賞選考委員会報告（康 学会賞選考委員会委員長）

- ・2020 年度学会賞受賞者は、学術賞 1 名、奨励賞 2 名、技術賞 4 社、論文賞 1 名となった。

- ・YIAは、6支部から受賞者が選出された。

⑦法務委員会報告（植田 法務担当理事・委員長）

- ・本年度の利益相反調査の回答率は82.8%（うち資金提供有り25名：全員問題なし）である。毎年80%前後で推移しており、2年連続で未回答の人が11名いた。委員会では、2年連続未回答の方に委員長名で正式な書類を送付（年内発送予定）し回答（未回答の理由も含めて）を促す。
- ・学会ホームページや学会誌などで調査の告知をして、回答率を上げるよう対応する。未回答の方への対応については、罰則ではなく、注意・指導に留める。
- ・現在の利益相反調査はメールで送付しているが、回答率を上げるための対策として、来年度の調査からWeb上での回答へ移行するよう検討中。
- ・年次学術集会時の利益相反開示について、開示していない方がいるかどうか、年会事務局に確認を依頼している。

⑧あり方検討委員会報告（坂本 理事）

- ・今年度の年次学術集会はweb開催となった。今後の年次学術集会の開催方法について、ハイブリッド（一部対面、一部Web）開催を含め、将来的に検討していく。この提案について、ハイブリット・WEB開催のデメリット（ハイブリッド開催は経費がかかる、Web開催を続けると現地開催した際に人が集まらなくなる可能性がある、協賛金集めに苦勞する）について意見があった。

2) 支部報告

- ・下記9つの支部から支部総会・支部例会などの報告がなされた。多くの支部では、会の開催が中止や延期となっはいるものの、各支部とも柔軟に運営を行っている。

- ①北海道支部（恵 支部長）、②東北支部（眞野 支部長）、③関東支部（吉田 支部長）、④甲信越支部（加藤 支部長）、⑤東海・北陸支部（飯沼 支部長）、⑥近畿支部（山田 庶務担当理事）、⑦中国支部（末廣 支部長）、⑧四国支部（山田 庶務担当理事）、⑨九州支部（橋口 支部長）

- ・支部総会などで使用するためZoomプロまたはZoomビジネスやウェビナーなどの契約を検討中である件が報告された。会員数が多い関東支部では契約に係る経費捻出は可能だが、他の支部は難しい。予備費などを契約に係る費用に当てれば、他の支部会や監事会なども開催しやすいのではないかという意見があった。会計担当理事と学会事務局とで方法などを検討し、理事会で再度審議する。

3) その他（前川 代表理事）

①次回理事会（新旧理事会）開催について

- ・2021年3月末開催予定

7. 閉会の辞（前川 代表理事）

- ・代表理事より挨拶があり、理事会は閉会した。

以上

2020年12月8日

議長

前川真人



議事録確認者

柴田綾子



議事録確認者

三井田 孝

